ＪＲバス関東本部「２０２４ＪＲ総連春闘」妥結に対する見解

ＪＲバス関東本部は申３号「２０２４年度賃金引上げ等に関する申し入れ」を行い、２１春闘での定期昇給カット、期末手当の低額回答により、実質賃金が抑制されている実態の中、物価上昇が拍車をかけている厳しい生活実態や、４年ぶりの累計黒字を達成した職場の組合員・社員の努力と人材流出の危機感等の声をうけ、精力的に団体交渉を行ってきた。

３月２５日の第３回交渉で示された会社回答は、「定期昇給を実施し、現基本給額に対し２０００円を加えた額を新基本給とする」という回答が示された。その回答は、２００６年新人事賃金制度が導入されて以降、過去最高のベア額であったが、昨今の物価上昇や他バス会社回答の世間相場を踏まえても到底納得できない回答であったため席上妥結はせず組織内議論とした。

第２回交渉では、「労働条件の最たるは賃金である」「満額回答・大幅賃上げ等の世間動向」「物価が上昇している現状」「人材定着が喫緊の課題である」等多くの職場の本音を訴えてきた。

また、２月２７日に会社から提案された「人材育成と社員の働きがいの創出に資する賃金制度見直しについて」における団体交渉では、５７歳に達した時点での減額制度は将来的に廃止に向けて引き続き取り組んでいくことや、車両整備従事者に対する賃金改善を引き続き検討していくこと、東京在勤者と地方在勤者の賃金格差に関しては、中長期的な経営の見通し等考慮し、基本給を底上げする必要があることを労使双方で確認した。あわせてバス運転者の改善基準告示改正では、労働協約で締結している基準を遵守することを確認した。

今春闘は、３月７日に開催した「２０２４春闘集会」を結集軸としてつくり出し、ＪＲ総連春闘として統一要求・統一闘争でたたかい抜くことを確認した。集会では、現行の基本給が低額であるため、各種手当が生活給となり、生活そのものがままならない状況の中、手当の増額に騙されないこと等の認識一致を図ってきた。また、交渉団に対する激励は昨年を上回り、バス千葉分会ではメッセージ行動を創造的に取り組み、バス長野３分会では合同旗開きを開催し、職場の現実や声を交渉団に集約する運動をつくり出してきた。組合員・家族の声も合わせ、交渉団の大きな力となった。

現在職場からは、「選択と集中」における路線廃止等に対する不満や不安視する声や、６０歳以降の雇用契約の改善を訴える声、人材の定着と確保を強く求める声が後を絶たない。また、改善基準告示改正に伴い労働時間管理に対するチェック機能を果たす必要性も増していく。このような現実の中、ＪＲバス関東本部は、「安全・健康・ゆとり」を確保するために是々非々の姿勢で取り組んでいく。そして、働き度が増し続けている労働実感等も踏まえ、職場の努力に報いる夏季手当満額回答を勝ち取るたたかいをつくり出していく決意である。

２４春闘の会社回答に対する職場からの声は、「２１春闘でのカット分が戻ってきただけではないか」「物価上昇や世間相場を踏まえても納得できない」等の声が出ていることからも、到底納得できる回答ではないが、今春闘において組織拡大を実現した成果のたたかいの総括と、今後の更なるたたかいをつくり出す決意を新たにし、苦渋の判断ではあるが妥結することとした。「職場と仕事と生活を守る」ために、全組合員で、バス関東本部のさらなる組織強化・拡大をつくり出していこう!!

ＪＲバス関東本部の２４春闘のたたかいを最後まで支えていただいた、全組合員と家族の皆さんに感謝申し上げ見解とする。

２０２４年３月２９日

東日本旅客鉄道労働組合

ＪＲバス関東本部常任委員会